

## コロナ禍で続くウガンダ支援コーヒー

館山市 粕谷 智美

私は安房高校在学時に、高校生がウガンダ支援活動を続けていることを知り、驚きました。大学時代には、その窓口となっているNPO法人安房文化遺産フォーラムを訪ねて、これまでの経緯を聞きました。さらに、ウガンダを視察し、このテーマで卒業論文を書きました。現在はNPOの専従となり、支援事業を担当しています。

この活動は、愛沢伸雄先生の平和学習を契機に、1994年から旧安房南高校で始まりました。2000年には現地に安房南洋裁学校と名付けられた職業訓練施設が開かれました。その後、安房高校JRC（青少年赤十字）部から安房西高校JRC部に引き継がれ、今年で27年目になります。NPOを中心に、年金者組合や安房・平和のための美術展、館山病院健康友の会感謝祭などの市民活動で、チャリティ絵画展やバザー・募金による支援ネットワークの輪が広がっています。

支援先のウガンダ意識向上協会（CUFI）は、内戦終結後に増加した孤児を保護する目的で、1986年に設立さ

れました。孤児だけではなく、学校を中退した子ども、技術習得を必要とする若者、コミュニティの女性たちへも支援の手を広げ、活動を展開しています。

2017年には、孤児たちの送迎や生活物資などを運搬する活動車両が水牛とぶつかって大破しました。緊急の支援依頼を受けた私たちは、クラウドファンディングに取り組みました。多くの賛同者から目標額120万円を超える募金が寄せられ、現地では念願のトヨタハイエース（中古車両）を購入することができ、喜びの声が届きました。

このとき、館山焙煎工房カフェポラリスを営む鈴木正博さん（NPO会員）は、ウガンダコーヒーのチャリティ販売で協力してくださいました。ウガンダのコーヒーは、アフリカ第2位の生産量を誇り、経済を支える主要な農産物の一つです。標高が高く、昼夜の温度差が大きく、そして肥沃な土壌に恵まれ、良質なコーヒー豆が生産されているとい

います。これを機に、ウガンダコーヒーのフェアトレードで、継続的な支援につなげることを、鈴木さんから提案がありました。そこで、これまでの支援成果とコーヒー農園の視察を兼ねて、鈴木さんと愛沢香苗さん（NPO役員）と私の3人は、ウガンダを訪問することにしました。

2018年8月、10日間にわたり、CUFI代表センパラさんが運転するトヨタハイエースで、彼らの活動拠点4ヶ所を回りました。

① 裁縫指導をしている「安房南洋裁縫学校」

② 教育・給食支援を行っている「キタリア小学校」

③ 有機農業の指導と実践をする「カウム農場」

④ コミュニティ支援をしている「北部メデ村」

子どもたちの歌やダンスの大歓迎に感動し、村人たちがみんなで子どもたちの世話をしたり、食べ物分け合ったりし、支え合う姿に心の豊かさを感じました。

安房南洋裁縫学校やコミュニティでは、ポシエットなどの小物やアクセサリー、色鮮やかなバスケットなどを作っています。さらに完成度を高めてチャリティ販売につなげ、自立に向けた取り組みを支援していきたいと思いました。

また、ウガンダコーヒーを取り扱っている日本企業の紹介でブフンボ農園を視察しました。ここでは、農薬に頼らず自然栽培



センパラさんと子どもたち

にこだわり、環境にもやさしく、風味豊かな高品質のアラビカ種を栽培しています。

帰国後、寄付つき商品としてウガンダコーヒーを流通するキャンペーンを企画しました。10月1日が「国際コーヒーの日」、9日が「ウガンダ独立記念日」であることから、10月を「ウガンダコーヒー月間」としました。安房地域内の喫茶店などに協力を呼びかけたところ、21店舗が協賛してくれました。2019年には、安房西高校JRC部が校内文化祭でウガンダコーヒーを提供する喫茶店に取り組み、夏には顧問の高野清孝先生がウガンダを視察訪問し、子どもたちやセンパラさんとの交流を深めました。

同年秋の台風被害や、その後に続くコロナ禍のために、支援バザーなど活動の場が減ってしまいましたが、ウガンダコーヒーによる支援の輪は広がっています。今回の取り組みは26店舗となり、愛飲者が増えただけでなく、ウガンダという国に関心を持ってくださる方も増えました。

コロナ禍のウガンダの状況は、「多くの人が収入を得る手段を失っている。貧困が増加しており、コロナ感染以前に、子供や高齢の弱者が飢餓に陥ってしまうことが心配」とセンパラさんは言います。そのような人々に食糧や医療ケアを届けるための支援活動を地道に続けているそうです。

また、独裁政権が35年続く大統領の選挙に向けて、昨年より民主化を望む野党の対立候補が逮捕されたり、死傷者が出る暴動に発展したりと、政情不安が続いています。

こうした状況のためか、昨年末には、日本から支援金を送る手続きが難しくなりました。とても困っていたところ、幸いにもウガンダに駐在している日本人の方に縁がなかり、直接センパラさんに支援金を手渡ししてもらうことができました。

大統領選挙はこの1月に行われ、現職のムセベニ大統領が勝利しました。しかし投票日直前にも、国民のSNS(ツイッターやフェイスブック等)が禁止されるなどの情報統制がありました。当選後もしばらくは、デモや圧力の心配が続きます。

そんななか、嬉しいこともありました。最近、高校生数名がNPOに入会したのですが、その中の館山総合高校生から、「コロナ禍でお家時間が増えた今、ウガンダコーヒーを飲んで癒され、支援につなげよう」と、校内でのチャリティ販売を提案がありました。インターアクト部や生徒会にも呼

10月は  ウガンダコーヒー月間2020  
安房地域の26団体が協賛

**ウガンダコーヒーを飲みましょう。**

1杯のコーヒーが、ウガンダの子どもたちへの支援に役立てられます。

10月1日は国際コーヒーの日 / 10月9日はウガンダ独立記念日

2019年に現地平島を遊覧した大型台風からの復興途上のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、気を配ることができない状況が続いています。私たちが26年にわたり交流を育んできたウガンダでは、医療体制の脆弱さから感染への危機が懸念され、さらに生活の手段を失った窮乏に置かれている方や子どもたち・高齢者による食糧が行き渡らないことも心配されています。  
ウガンダコーヒーを通じて、支援の輪を広げる着付つきキャンペーンを今年も企画しました。ぜひ、ご愛飲ください。

**ウガンダ と安房の友情の絆**  
千葉県南部の安房地域では、26年にわたり、高校生と市民が、ウガンダの子どもたちへの支援と交流を続けています。1994年に旧安房南高校から始まり、安房高校JRC(青少年赤十字)部を経て、現在は安房西高校JRC部が引き継いでいます。  
かつて、繰り返されたウガンダの内戦でエイズが蔓延し、孤児があふれました。今なお貧困で苦しむ子どもたちも少なくありません。現地には「安房南」と名所がついた洋裁学校も運営され、旧安房南高校のミシンが使われています。  
昨年、安房西高校 JRC 部顧問の高野清孝先生がウガンダを訪問しました。支援先や元子ども共の自立訓練所などを視察し、友情を深めました。

**ウガンダ コーヒーの魅力**  
赤道直下の高地で、緑豊かな自然に恵まれ、「アフリカの真珠」と呼ばれるウガンダは、アフリカ2位のコーヒー産出国です。  
自然栽培された高品質の「アラビカ種」は、からだにやさしく、柔らかなコクと爽やかな風味が特徴です。

**\* オンラインショップ**  
100g=550 円  
200g=1,000 円

 UGANDA-SHOP

TEL:090-3218-3479



びかけ、前向きな話し合いが進んでいます。  
NPOでは10月だけではなく、通年、ウガンダコーヒー(豆・粉)を取り扱っています。ご希望者は電話またはオンラインショップにて、ご協力をお願いいたします。